



あんじょう

第17号

〈発行・編集〉安城市民生委員・児童委員協議会 広報部会

仕切りの
設置距離の
確保

地区でのサロン活動 こんな工夫をしています！



※サロンは会場や人数等を考慮し、一部の地域で実施しています

検温



消毒



支援が必要な人や世帯への相談相手となり、適切な専門機関に繋ぐのが私たち民生・児童委員の使命です。感染拡大防止を徹底して活動の方法を工夫しつつ、「新しい生活様式」を心掛け、支援を必要とする人を見逃すことがないよう、地域で活動してまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて、本年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、私たち民生・児童委員の活動も縮小せざるを得ない状況に置かれています。その一方で、経済の停滞による生活困窮者の増加や、自粛生活において高齢者の外出機会が減り、見守りが行き届かない等の問題がより重大さを増している中で、今こそ、地域における身近な支援が必要な時期であるともいえます。

さて、この民児協の活動の一層の充実と質の向上を目指し、皆様のご支援・ご協力をいただき、務めてまいりたいと思います。



昨年十二月の一斉改選において、引き続き会長職を拝命いたしました。二期目となります

安城市民生委員・児童委員協議会
会長 柴田綾乃

わたしたち、新任委員です！

「思いやりの言葉の大切さ」 東山地区 富田 公栄

「お元気ですか？おかわりないですか？」と、ひとり暮らし高齢者の方を訪ね始めて8カ月が過ぎました。皆さんどこかしら具合の優れないところがあっても、「おう、ご苦労さん」「はい！かわりないよ」と、だいたいの方は笑顔で返してくださいます。自分より30も40も年上の方々なので、会話の焦点を探る日々。尊敬の念を忘れずお伺いしていると、素敵な言葉をいただけます。「ありがとう」と。



「コミュニケーションの大切さ」 中部地区 植村 康治

新任研修、引継ぎを終え、これからという時に新型コロナウイルス感染症の拡大により会議は中止続き。相談相手がなく不安は募るばかりでした。7月に再開した会議では、地区会長から「コミュニケーションが大切。地区社協と包括支援センター、民生・児童委員の交流会を行うので、気軽に何でも相談し、話し合ってください」との言葉。『ひとつの輪』の中で頑張ろう！と決意が新たにできました。



「出来ることから始めます」 作野地区 森本 常二

民生・児童委員を拝命したものの、新型コロナの流行で大変なスタートとなりました。ほとんどの活動が休止になり、先輩方に教わる機会が激減してしまったのです。

そのような中でも、ひとり暮らし高齢者訪問だけはやっていこうと思いましたが、地域活動を全くしていなかった私には、気が重い玄関チャイムでした。しかし、始めてみると逆に笑顔で「ありがとう」と言ってもらえて、今では雑談もできるようになりました。今後も微力ながら、地域活動に関わっていきたいと思っています。



「コロナに負けない民生・児童委員」

中央地区 今泉 真佐子

民生・児童委員になり、これからどのような活動をするのか不安や戸惑いばかりでした。それに追い打ちをかけるような、



新型コロナウイルス感染症による危機的・災厄的な状況。

このような中で思うような活動ができていませんが、先輩の民生・児童委員の方から、「人に接して温かな気持ちになれる大切な役目ですよ」とかけていただいた言葉を具現化できるように努力したいです。

「地域の福祉活動に思いを寄せて」

安祥地区 石原 孝子

昨年の11月末、前任者に同行してひとり暮らしの高齢者のお宅を訪問する機会を得ました。担当16軒のうち、12名の方にお話を伺うことができました。元気な方が多い中、視力を失い生活の不自由を抱えてみえる方にお会いしました。通院や炊事、掃除等、福祉センターや包括のスタッフ、ヘルパーの支援を受けて生活していることを知り、福祉の充実を感じました。私も、その一端を担っていきたいです。



「すべての出会いに感謝して」 西部地区 鶴田 由佳子

民生・児童委員となって、たくさんの人生の師と出会いました。訪問では、豊かな人生経験や自負を持って生きる心構えに、行くべき道を教わっています。健康体操は、体力維持の必要性を実感する時間です。民生・児童委員、福祉に携わる皆様からは、広く温かくも凛とした姿勢に、今のあり方を学んでいます。いただいたご縁を大切に、一歩ずつ務めていきたいと思っています。



「民生・児童委員として」

明祥地区 木村 博

民生・児童委員の任命を受け、数カ月過ぎたところで、新型コロナウイルス感染症が広まり始めました。私の担当地区にはひとり暮らしの高齢者の方が多く、接するときにはソーシャルディスタンスを取りながら「お元気ですか」「お変わりありませんか」の声をかけをしています。支援・見守りの中で顔と名前を覚えていただき、地域の福祉に貢献できるよう研修会、会議等で学びながら活動したいと思っています。



「人と人との繋がりを大切に」 桜井地区 都築 光男

引き継ぎで民生・児童委員の役割の多さに驚きました。初めての会議では「民生・児童委員の役割は話を聞いて、人と人を繋げること」「誰に繋ぐのか分からないときは、先輩に聞いてみる」と先輩に教えられ、まずは自分から地域の人との繋がりを作ろうと思いました。感染症対策の3密防止のため地域の行事、会合が中止になっている今こそ、人と心の繋がりを大切にしたいと思っています。



専門部会について

「閉ざされた部会活動」

高齢福祉部会長 榊原 真由美

12月、一斉改選後の新任委員さんの多さに驚き、高齢福祉部会のテーマとして、「地域における福祉施設」を分かりやすく学んでいこうと決めました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、部会活動は停止。長い自粛生活は、日々の民生委員活動にすら迷いや不安を覚えさせるものとなりました。

6月、施設への視察研修は閉ざされたままでしたが、一度はハートフルケアセミナーの開催ができそうかと思われ、人数制限こそありましたが、新任の委員さんを優先に計画を立てていました。しかしその矢先、市内でも感染者が増えはじめたことが、中止の決断を余儀なくさせました。白紙となった部会活動に先の見通しが立たない状況ではありますが、今後は何かの形で学習会を行いたいと思っています。そしてこれからは、新しい生活様式の中での部会活動のあり方を考える時なのではないかと考えています。



「2020年 障害者とコロナに対し」

障害福祉部会長 原 繁伸

今年は新型コロナウイルス感染症の拡大により 3月から6月までの4カ月間、民生・児童委員として参加する会議等が中止となりました。

障害福祉部会としては、6月から9月までのぬくもりの郷、ぬくもりの家、ぬくもりワークス、まるくてワークスの訪問を予定しておりましたが、すべて中止となりました。また、9月28日には視察研修会として、日本介助犬協会への訪問を計画していましたが、それも中止となってしまった状況です。

このように活動ができない中でも、講演会を計画し、障害福祉部会としての学びに繋がたいと考えていましたが、市内の感染状況から、中止とせざるを得ませんでした。

一日も早くコロナウイルスの感染拡大が収束するよう、私たちが互いに気をつけて3密を避け、手洗いの徹底やマスクの着用を心がけた生活を送りましょう。



「新型コロナウイルス感染拡大に思う」

児童福祉部会長 石隈 厚司

令和2年は新型コロナウイルスとともに始まりました。世界的にもパンデミックと言われる感染拡大が続いている中、姿の见えないウイルスの拡大は、人間の行動様式をも変えようとしています。本来、人間は人と人との密接な繋がりの中で社会を形作り成り立ってきましたが、それが今、突然断ち切れようとしているのです。民生・児童委員としても、3密を防ぎ、ソーシャルディスタンスを取った活動を求められています。戸惑うばかり。我々の活動は、人と人との繋がりが命です。

このような状況の中で、世の常として社会・経済的変動のしわ寄せは、社会的弱者に集中します。社会福祉施設や介護施設・病院それを支える人達も困難な状況に置かれています。また、家庭においては児童虐待や家庭内暴力が増加しているとのニュースも聞かれます。今こそ、社会的弱者に向けた支援の輪が必要な時ではないでしょうか。

児童福祉部会の活動も、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、今期は満足な活動も行えておらず、もどかしいばかりです。皆さんお身体大切に、活動に取り組みましょう。



「主任児童委員部会の活動について」

主任児童委員部会長 榊原 守

主任児童委員部会では毎年、主に小学校と公民館において竹細工のおもちゃ作りを通して親子ふれあいの場を提供しています。実際におもちゃを作っている時だけでなく、家に帰った後の一家団らんの折、親子の会話が弾み、絆を深める一助になればという思いで、この親子ふれあい活動を継続しています。

また、近年深刻な社会問題になっている児童虐待に主任児童委員としてどのように対応すべきか学ぶために年3回研修会を開催しています。

内容としては、刈谷児童相談センターの方々から虐待の基本知識や現況等の講演（児童福祉部会合同）、実際に起こった虐待事例を基にしたグループ討論、児童養護施設等の施設見学等です。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でふれあい活動と研修会の開催ができない状況にあります。

このような状況の中でもできる、新たな活動のあり方を見出していくことが必要であると感じています。そして今後も、民生・児童委員の皆様や学校をはじめとする関係機関と密接に連携して、活動していきたいと思ひます。



「身近な民児協を目指して」

広報部会長 竹内 美佐子

私たち広報部会では「民生委員・児童委員協議会」（略称：民児協）の役割及び活動内容等を「民児協あんじょう」という形で、一人でも多くの方々の目に留まり、身近に感じていただきたい。そんな思いで作成に取り組んでおります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、私たちの活動も満足には行えません。いかにして今年度の活動を記事にし、読む方に適正かつ的確な情報を提供できるか。戸惑いながらも原稿の依頼・校正等に向き合っています。

今後も、新しい生活様式の中での民児協の活動をお伝えできるよう、広報部会一同励んでまいります。



地区会長からのメッセージ

「私は何を残すだろう」

東山地区会長 鈴木 忠秋

民生・児童委員になって7年。地区の副会長はじめ29名の委員の皆様を支えていただいています。毎月の会議で民生委員・児童委員信条を唱和するたびに、1ヶ月間を振り返っています。東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」に「私は何を残しただろう」という歌詞があります。古希を迎え、これから民生委員の一人として何を残せるかと思う日々です。高齢者の方々への支援、令和を担う子どもたちの健やかな成長の一助となれたら幸いです。

「潤滑油」

中部地区会計 杉浦 美紀代（会長代理）

高層マンションが建ち並ぶ地区、田園風景が広がる地区、その両方がみられる地区と、環境が大きく異なる5地区41名の中部地区は市内一の世帯数で、抱える問題も様々。月1回の会議では名前を覚えるだけでも大変です。

そこで、忘年会を含む年4回、会議後の時間を使って交流会を実施し、日ごろの悩み、疑問などテーマを設けて、小グループで意見交換をしています。珈琲とケーキとともに！



「新任民生・児童委員の方へ」

作野地区会長 小原 治雄

令和になって最初の改選から一年が過ぎようとしていますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためほとんどの活動が中止になり新任の方にとっては大変な状況であると思います。そんなときに頼りになるのが、各地域の先輩委員です。地域の特性もあるかと思いますが、コミュニケーションを図り、まずは各町内会単位の委員同士で連絡を取り合って、身近なことから対応していきましょう。



「信頼で繋げる支援」

中央地区会長 岡田 初夫

地域で共に生きる住民の一人として、また、委員として信頼関係を築く事がとても大切だと思います。町内の行事等への参加はお互いの気持ちを知る良い機会でもあり、同時に、問題を抱え込んだ人を見出す場でもあると言えます。

共に生活する中で地域に耳を傾け、皆様と協力し、支援を必要とする人を適切な機関へ繋げて行けるよう、地道な活動を続けることが望ましいと思います。



「気楽に話し合える民児協に」

安祥地区会長 杉浦 正之

今回の一斉改選で半数が交代。各町内会長さんには、人選に大変ご苦労をかけました。安祥地区は定数23名（欠員1名）でスタート。平均年齢も、66歳から63歳に若返りました。

新任の頃先輩から「一人で抱え込まないこと。仲間に話せば気持ちも軽くなる」と助言を受け、日々楽しく活動してきました。今後とも気楽に話し合い、地域福祉活動の喜びを実感できる民児協にしていきたいと思います。

「私が民生・児童委員になったわけ」

西部地区会長 長坂 潔子

皆様こんにちは。私が民生・児童委員になったきっかけは、私の父の友人であり、16年前の当時、町内会長をされていた方から言われた「断っちゃいけない」の一言でした。

生まれ育った地元で恩返しをしたいと思ってお受けしました。毎月の地区民協会議での勉強会、専門部会での施設訪問と、民生・児童委員を引き受けたからこそ経験できたことばかりです。



「見守り活動は寄り添いから」

明祥地区会長 三浦 恵江

民生・児童委員の訪問、見守り活動は、相手の立場に立つて信頼関係を作ることです。まず、顔見知りになり、焦らず、相手の話をゆっくり聴くことから始まると思います。

新任の時、老人会の役員さんから「親切に訪ねても相手に煩わしく思われる」とアドバイスをもらいました。住民に寄り添い、支え合う、つなぐ、安心安全へと、すすめていけるように努めています。



「相手の立場に立って考える」

桜井地区会長 岩瀬 武

「おはよう！今日も元気でよかった」6：30ラジオ体操での挨拶。25～30名程が参加している中、一人暮らし3名との会話から始まります。住民同士が支え合う地域づくりが求められているサロン活動等での会話の中から、相手の立場に立って考え気持ちに寄り添うことが大切です。結論やすべき論で正解を求めるのではなく、自然体で皆で支え合い、考え合いながら、民生・児童委員同士が対話を深め、制度の充実に向け歩み続けていきましょう。

毎年、本紙において福祉まつりバザーでの収益金の報告を行っておりましたが、令和2年の福祉まつり及びバザーは中止となりましたので、ご報告いたします。次回開催の折は、ぜひご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

【編集後記】

皆様のご協力により、第17号を発行できました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

広報部会一同